



わらしべキッチン 代表
ワンライフジャパン 共同代表

川 渕 友 絵

TOMOE KAWAFUCHI

長野県人口定着・確かな暮らし実現会議
2014年11月19日
長野県庁3F 特別会議室



移住の理由

- **自然が好き。人間的で健康的な生活がしたい！**
 - 緑、土、季節感、生きている実感がほしい。
 - 都会生活で疲労し、摩耗する心とカラダ。恒常的に未病状態。
- **自分のライフスタイルを重視した生活**
- **ファーストライフ (fast life) にはない価値**
 - 地域に根ざしたコミュニティーへの参加。人と深くつながる。長いおつきあい。下駄履き感覚。思いやりのキャッチボール。信頼。
 - スローライフ。手づくり。自給自足。農的生活。自然農。有機農業。年中行事。伝統。
 - 時間の重みのある生活への憧れ
- **都会生活の危うさ**
 - いつ起きるかわからない天災・人災。ブラックボックスのライフライン。自助努力の限界。皆で渡れば怖くない？

信州をえらんだ理由

- **なじみの田舎、信州。**

- 学童期の林間学校。家族でのスキー旅行。成人後の登山、自転車旅行。
- 移住生活をイメージする素材の多さ・リアルさ。「知っている」感覚からくる安心感。

- **大都市圏に近い立地**

- 日本のだ真ん中。東京と関西の通過点。国際空港からの距離。
- 事業拠点としてのメリット

- **美しく多様な自然環境**

- 多様なライフスタイルの可能性。標高の高い山、里山、川、山間地、平野。

- **受け継がれる生活文化、伝統**

- 食文化。生活の知恵。自然資源を巧みに利用する伝統技術。
- 高齢者・長寿者からの学びの機会が豊富

栄村での暮らし ～生業～

one life japan
people, place, bike, life

ワンライフジャパン
(2007年～)

自転車、ウォーキング、ハイキングなどのアクティブな手段を通じて、地域の自然・生活文化・歴史的遺産を体験し、地域の人と交流するポジティブな旅の機会を提供



わらしべキッチン
(2012年～)

地域資源を活用した小規模の農業・加工・販売を行う6次産業化事業。自然と共生するライフスタイルと現金収入を両立した生活モデルの確立を目指す。〈農水省6次産業化認定事業者〉

one life japan
people, place, bike, life

家族 ~ 小グループ ~ 学校



one life japan

people, place, bike, life

家族 ~ 小グループ ~ 学校



one life japan
people, place, bike, life

家族 ~ 小グループ ~ 学校



one life japan
people, place, bike, life

家族 ~ ホグループ ~ 学校



one life japan

家族 ～ 小グループ ～ 学校



one life japan
people, place, bike, life

家族 ～ 小グループ ～ 学校





自ら生産した米、地域農業者の副産物を活用し、加工・販売を手がける【農業の6次産業化】の取組み



移住8年目の結論

- 「**生きている実感**」が心地よい
 - 自分で作ったものを食べられる。土を耕し、命をはぐくむシンプルで根源的な喜び。
 - 体を動かす(ズクを出す)。野山の恵み。お金に頼りきらない生活の可能性。
 - 物々交換。等価交換。価値創造の地域経済システム。
- **無限のものだけが与えることのできる安心感**
 - 自然は裏切らない。お天道様はまた昇る。必ず訪れる春。忍耐力・未来を信じる力。
- **不便だけど、それでいい。**
 - 都会と比較しない。**田舎に合った「しあわせの定義(価値観)」**をもつ。
 - 不便さを補うに余りある**長所を正当に評価する目を養う**。「足元の価値」。
- **自然保育は、子どもへの最高の贈り物**
 - 子どもの知的好奇心、感性の発達。柔軟性。身体能力の発達。怪我・病気をしない。
 - 親子で「しなやかな強さ」を学ぶ

自然保育in栄村に向けて

- 北信の豊かな環境を子どもの成長に活かしたい。
 - 移住者を中心とする栄村有志女性4名で、語る会を開催予定(12月中旬)
 - 子どもがすくすく育つ・子育てしやすい環境は、女性にとって非常に魅力的。生産人口定着の切り札の一つ。
 - 信州型自然保育認定登録制度

- 子どものしあわせこそ、究極の社会貢献

- しあわせな子どもが幸せな社会を作る
- ライフワークとして取り組みたい



National Institute for Youth Education
国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

里山子育てフォーラム

◆日程 2014年11月5日(土)
◆時間 10:00~12:30(9:30から受付開始)
◆会場 栄村かたくりホール(栄村役場内)
◆対象 信濃中の口方保育、森のよちえんや自然書に興味・関心のある方
◆定員 60名(先着順)
◆参加費 無料
(託児有り:200円/1名 事前申込必)
◆講師 山口京子氏
(信濃町信病院小児科医、演題「頑張れ森のよちえん」)
山口明子氏
(学校法人いづなこども森幼稚園園長、演題「森の恵みを活かして〜こども森幼稚園の年間〜」)
◆主催 NPO法信アウトドアプロジェクト
◆後援 山野、栄村

【お申込み&お問合せ先】
※下記FAXまたはE-MAILにて参加される方の氏名、電話番号、居住地域、託児をご希望の方は、お連れお名前、年齢、性別をご連絡ください。

NPO法信アウトドアプロジェクト
〒389-2702 長野県下川郡村北北信 4414-1
TEL 0269-87-3387(事務所)
090-2668-8532(担当:ヤリス)
FAX 0269-87-3387
E-MAIL info@outdoorproject.jp
Web http://outdoorproject.jp



(上) NPO法人信州アウトドアプロジェクト(SOUP)主催「里山子育てフォーラム」

(左) SOUP主催「森のようちえんin栄村」で森のお散歩で、工作の材料を収集する娘

移住希望者の不安①

「仕事がない」・・・

- 仕事はある。深刻な人手不足も発生。
- でも「自分のしたい仕事」がない。
 - 地方の仕事は、労働集約型（農業、建設業、製造業、観光業）。季節雇用。
 - 希望の多くは事務職の正社員。
 - 「起業はハードルが高い」「職の安定」の幻想



◎都会生活の延長でない新しいライフスタイルイメージをもつ

◎自らの能力・成長が安定と成功への道

移住希望者の不安②

「利便性が良くない」・・・

- 「都会の利便性」と「田舎の利便性」の違い
- スローライフの価値を正當に評価する
 - 「不便」の裏側にある「よろこび」の認知。コインの裏表。
 - 個人の利便性性向にあう地域をみつける。



◎抽象的な情報ではなく、**具体的な情報**を得る

◎自分(家族)の求める**条件の棚卸し**

若年人口定着への施策提案

- 優先順位をつける。
 - 地域をしぼる。
 - 判断基準は、「キーパーソン」、「レディネス readiness (受入体制の整備度合)」
- 永続するコミュニティをデザインし、定住者をリクルート
 - 地域コミュニティの永続に必要な機能をプロット。
 - 将来構想の実現に必要な移住者プロフィール(職種、技能、年齢等)を絞り込む。
 - 「来る者は拒まず、来る者を選び求む」。大都市圏でのギャザリング企画 等。
- 信州ライフ・サポーターの設置
 - ネガティブ情報を含むリアルな生活情報の提供と総合世話係。担当制。世代別。
 - じっくり時間をかけて話を聞く。ミスマッチの予防。信頼感と親近感の醸成。
- 通信インフラ、起業支援、子育て環境の充実

ご清聴ありがとうございました

